

2022年度 冒険学校 まふゆのキャンプ振り返り

2022 冒険学校まふゆのキャンプ村長・自然文化誌研究会運営委員 賛田隼人（だにえる）

まずは今年も二泊三日のまふゆのキャンプを、大きなケガをすることなく、寒さで体調を崩す子どもやスタッフを出すこともなく、終わられたことを嬉しく思います。2年前の12月に、スタッフ3人で集まり、どうやったら冒険学校を続けることができるのかを話していたことが懐かしい。いまだコロナ禍は続いています。参加者もスタッフもそれぞれが備え、冒険学校への想いを胸に参加してくれているからこそ、こうやって活動を続けていくことができ、本当に感謝しています。

今回は、参加者の全員が夏の冒険学校か、まふゆのキャンプの経験者で、キャンプ場での過ごし方はみんな慣れたものでした。自分たちでテントを張り、寝袋を3重にして寝床の準備を終えると、たき火に集まったり、工作を始めたりとしていました。じっとしても寒いだけなので、体を動かす遊びも多かったです。折り紙で紙飛行機を作ったかと思ったら、キャッチボールのように飛ばしあったり、さっきまで杉の葉を集めていたカゴでキャッチしようとして走り回ったりと様々な発想で楽しんでいました。子どもたちだけでなく、スタッフも一緒になって楽しんでいて、特にロープで大縄跳びをしていたときは、すぐに引っ掛かってしまうスタッフの方がむきになっていました（誰もケガをしなく

て本当に良かった…）。

キャンプ場以外のプログラムを充実させることができたのも良かったです。ヘリポートでの星空観察や、村民の加藤源久さんを講師に野鳥観察、こすげの湯からキャンプ場までナイトハイクなど、小菅の冬をキャンプ場の外にも出て、味わってもらうことができました。昨年は感染症対策優先で、スタッフにも余裕がなく、課題としていた部分なのでそうした点から見ても、のびのびと、それぞれのやりたいことに取り組むことのできた三日間だったと思います。

今回で3回目の村長でしたが、やる度に楽しくなっていくのは支えてくれるスタッフあってことごとく改めて思います。自分自身の何とかしようという気負いや不安、焦りを自覚し、それを手放して、色々な場面で任せられることができると、子どもと楽しむ余裕が生まれました（今回は本当に子どもの笑顔がたくさん見られて楽しかった）。その余裕は、何度も小菅に来てくれて、一緒に活動をしたという事実と信頼があるから。学業の合間で来てくれた大学生スタッフ、遠方から毎回来てくれる社会人スタッフ、事前準備や後片付けまで参加してくれたスタッフたちへの感謝でこの振り返りを終わりにします。



この事業は令和4年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催しました。

<活動の様子と参加者からの声>

寺井健人くん (小学校4年生)

【感想】

今回のキャンプでは靴とズボンが焚き火の火でとけると
いう経験をして、熱の力を体感しました。
またいつもではできない“火を自分の身長まで大きくする”
紙飛行機を全力で飛ばすことができよかったです。充実
した3日間で楽しかったです。



まふゆのこすけ

イヤークラップもあるといいかも

私は“防寒のため”にマスクしたり髪の下ろしたりしてた。

下着は寒すぎで着替えないことになると思う

ポケットにはカイロをin! 内側に貼れたら最強。

手袋必須。指が分かれてるほうが良い。

上下とも裾を絞れるタイプだと嬉しい。とにかく風が入ってこないようにすべし。

靴下を重ねて履くため、余裕のある大きさのものを。

夜は特に帽子大事! (髪のもべたんこになるけど...) フードでもあると安心。

大きめのマフラーだと便利! プランケット・枕の代わりになる

アウターはスキューエア並みのものを!

インナーはできるだけウールのものを。なければヒートテックの重ね着でもOK! 夜は2~3枚重ねても足りないくらい...

最低2枚重ね! ジーパン+ジャカジャカパンツでギリ生きられたくらい。一番下にタイソウスパッツをはくとなおよし。

靴下は3枚くらい重ねる!! ハイソックス×2+モコモコ靴下とかが良いかも!

Attention!

- ★ “1枚で暖かい”ではなく、“重ね着で暖かい”にする! (たまたま屋間暑い)
- ★ HOTのペットボトル持ってくるべし。湯タンポになる! (快眠のためには必須)
- ★ すぐ暗くなるからライトを早めに携帯しておくこと!
- ★ 焚き火に近付くことが多くなるから、身に纏うものは全て火の粉が飛んでも大丈夫なもので! 小菅のとちより

(スタッフの森住芽衣さんが作成してくれたイラストです)

